



自分と戦え! 勝負しろ! 〓

毛呂山アトムボーイズ



硬式野球の毛呂山アトムボーイズは、昭和52年に発足して以来35年間活動を続けています。ボーイズリーグの埼玉県支部に所属し、今年は県内の予選を勝ち抜き、関東大会に出場することができました。また、東北大会へも出場し銅メダル(3位)を獲得しました。

チームの方針は、野球ができる環境に感謝をすること。勝敗よりも「ありがとう」の気持ちを伝えたい。だからこそ全力で走り続けます。

野球をとおして何を学ぶことができるのか、思いやる心を第一に考える我がチームは、低学年から高学年まで一緒に練習に取り組みます。高学年は硬式ボール、低学年はティーパー(柔らかいボール)と使用するボールが違つため、試合形式の練習では低学年は高学年の練習を見ながら野球の勉強です。低学年がティーパーの練習をするときは、



高学年が野球を教えてあげます。これも大事な練習であり、チームがひとつになる大切な過程なのです。お弁当を食べるとき

も全員が輪になって一斉に「いただきます!」の掛け声で、皆で食べることにしています。全員笑顔! 大切な仲間です。



感謝とは何か: : : いま野球ができる環境に全員で喜び合い、私たちを支えてくれる全ての人たちへの恩返しに、いつも一生懸命練習に励みます。試合に勝つことより、どれだけ全力で戦ったのが大事。エラーしても三振しても、いつも全力で戦うことが私たちの感謝の気持ちなのです。

毛呂山アトムボーイズは、今日も全力で白球を追いかけます!

練習日 土・日・祝日の午前9時〜午後5時

場所 目白台グラウンド

会費 入団金1000円、月会費3500円(2年生以下2500円)

問合せ 毛呂山アトムボーイズ ☎090-1457-8137 大谷木

出雲伊波比神社の獅子頭

文化財シリーズ 226

資料館では11月23日より第17回特別展「尾根を越えた獅子舞」を開催し、現在行われている町内4か所の獅子舞のほか、かつて使われていた出雲伊波比神社の獅子頭と阿諏訪日枝神社の獅子頭も展示公開します。

出雲伊波比神社の獅子舞は、旧八幡宮(現在の天神地祇社)で行われていました。獅子頭が保管されていた箱には、「鎮守八幡大神/例祭道具/七ヶ村/惣氏子中/明治五年/壬申八月日」と墨書されており、明治5年には八幡宮の8月例祭で七村(当時流鏝馬を奉納していた小田谷村・長瀬村・前久保村・平山村・堀込村・馬場村・毛呂本郷の七村)が獅子舞を奉納していたことがわかります。

江戸時代にも八幡宮の例祭には流鏝馬と獅子舞を行ってきたことが天明6年(1766年)の古文書にも記されており、江戸時代から流鏝馬

の付祭りとして行われてきたようです。

獅子頭の内、1頭は女獅子、ほかの2頭は男獅子で、近隣の獅子舞同様、3頭で1組となつて一人立ちの獅子舞が行われていました。男獅子は2頭とも鹿のように枝分かれした角で、女獅子に角はなく、頭に宝珠を乗せています。また、女獅子の歯は黒く塗られています。かつて、高山不動尊内の三輪神社で行われていた獅子舞の女獅子や葛貫の古い女獅子の歯も黒く塗られています。

その後、八幡宮の例祭は春に変更されたと考えられ、現在も春に流鏝馬が奉納されています。戦後、八幡宮の春の例祭で最後に獅子舞を奉納したときの関係者の話によると、演目は女獅子隠し・竿掛り・花吸いを舞い、所役は4人の女兒によるサラッコ(花笠)とハイオイもいたといっています。

出雲伊波比神社(旧八幡宮)の獅子舞は幻の獅子舞となつてしまいました。獅子頭は、流鏝馬と獅子舞が深い関係にあったことを物語っています。



出雲伊波比神社の獅子頭